

女性問題学者の著者が提言する人生100年時代の生き方

# 人生一〇〇年コースを生きる

2023年9月20日発刊

株式会社あさ出版(代表取締役:田賀井弘毅、所在地:東京都豊島区)は藤井治枝 著『人生一〇〇年コースを生きる』を2023年9月20日(水)に刊行いたします。

## 老後から終局への道を豊かでなだらかにするために必要なこと

人々の寿命はだんだんと延び、人生一〇〇年コースが夢ではなくなりつつあります。女性問題研究家(女子教育、母親論など)として活躍してきた著者・藤井治枝氏は現在94歳。自宅のある武蔵野市吉祥寺からもほど近い老人ホームで日々を過ごしています。

本書では、施設の中で繰り広げられる入居者・職員たちによる人間模様の機微を、著者の鋭くかつ温かな視線で観察し、描きます。介護問題や老後の資金問題など、これからの日本が取り組むべき問題に迫る、新感覚エッセイです。

### 書籍情報

タイトル:  
人生一〇〇年コースを生きる

著者:藤井治枝

発行日:2023年9月20日

ページ数:112ページ

価格:1,430円(10%税込)

ISBN:978-4-86667-636-4

レーベル:あさ出版パートナーズ



老後から終局への道を、  
豊かでなだらかなものにするために  
必要なものは

お互いの過去は千差万別でも、  
共通の(今)を大切に、弱い所は助け合い、助まし合って  
「一〇〇年コース」の最終地点を目指しましょう(本文より)



### 著者紹介



## 藤井治枝(ふじい・はるえ)

女性問題学者。

1929年、東京生まれ。1950年、聖心女子大学(旧制)歴史科卒業。その後、東京教育大学故楯西光速教授に師事。「日本経済史」、「日本産業史」の指導を受ける。1995年「日本型企业社会と女性労働」により、立教大学経済学部より、「経営学博士」の学位を受ける。

1966年「朝日ジャーナル論文賞」に入賞。以後、女性に関する問題を中心に、労働・教育・家族・家庭など、幅広く評論活動に従事。同時に、神奈川県横浜市、藤沢市などの「婦人問題懇話会」の理事・座長・会長を務めた。

# ——老後から終局への道を

## 豊かでなだらかにするには、何が必要なのか——

老人問題のエキスパートであり医師でもある和田秀樹先生は、その著書の中で、100歳以上の高齢者数の推移を1963年には男性20人、女性133人でしかなかったのが、58年後の**2021年では、男性10,060人、女性76,450人に激増**していることを、厚生労働省の資料から明らかにされています。

※データ：和田秀樹監修『70歳、80歳でとても幸せになる人、不幸になる人』（メディアックス）より

そして更にこの年齢まで健康的に生き「**とても幸せになる人**」と反面「**とても不幸になる人**」に分かれることを、具体的に指摘されています。

この著書は人生一〇〇年コースを辿るには、様々なプロセスがあることを教えてくれます。「人生一〇〇年コース」の実現が夢でなくなりつつある現在、その実現への道筋は、長い年月の積み重ねです。

その記録が、少しでも後に続く人々の役に立てばと、私のささやかな人生コースを振り返り、反省もこめて、このレポートを世に問うてみたいと思いました。

※本書「はじめに」より抜粋

## 「人生一〇〇年コースを生きる」目次

### はじめに

### 第一章 生いたち

### 第二章 人生の四季

春 ～青春期～

夏 ～活動期～

秋 ～収穫期～

冬 ～終局への道～

### 第三章

### (人生コースの最終地点)

### 有料老人ホームの日々

入居までのいきさつ

施設のあらまし

日々の生活 或る一日/グループ作りあれこれ/主な年間の行事

人間関係アラカルト 入居者の人々/職員の人たち

付記 ～「コロナ」発生下の施設で～

### おわりに